

日蓮大聖人御書全集

なむごしよ

南無御書

新版
2162

なむごしよ

南無御書

どうとう 造

ふせ 進

惜 もの いのち

堂塔つくらず、布施まいらせず、ただおしき物は命ばかりなり。

ほけきよう

思

さんぜ ほとけ

これを法華經にまいらせんとおもう。三世の仏は

みな ぼんぷ

とき いのち ほけきよう

ほとけ 成

皆、凡夫にておわせし時、命を法華經にまいらせて仏にな

たも

ゆえ

いつさい

ほとけ

はじ

なむ

もう

なむ

り給う。この故に、一切の仏の始めは南無と申す。南無と

もう

がつし

ことば

ど

きみよう

もう

きみよう

もう

申すは月氏の語、この土にては歸命と申すなり。歸命と申

てんだい しゃく

い

いのち

みずか

き

とううんぬん

すは、天台、釈して云わく「命をもつて自ら歸す」等云々。

いのち

ほけきよう

ほとけ

たも

にちれん

こんど

命を法華經にまいらせて仏にはならせ給う。日蓮、今度、

いのち

ほけきよう

命を法華經にまいらせて。